金木だより

発行所　金木町役場
印刷所　東奥日報社印刷局

金木だよりは毎月一回発行し、各家庭毎に一部ずつ無料配付しております。

金木町辞令

（九月二十七日付）
伊丸岡勘二、高橋慎一郎、中元嘉四太郎
金木町選挙管理委員会委員に選任する
山田勝太郎、田中重正、中谷新一
金木町選挙管理委員会補充委員に選任する

県保母試験合格者

（九月四日付）
金木町保育所　浅木　れい
同　福士　玲子

郡民生委大会表彰者
◇優良民生（児童）委員
金木町寺町　沢田繁太郎
◇協力団体＝金木町保育所母の会

電話三九番ゴは
金木保育所です

金木川・近く局部改修

水害の悩み解消
用地買収せば着工

台風来襲のたびに毎年、氾濫しなければよいが、と心配されてきた金木川も、本年度に入り建設省では第一期工事として一千万円の予算を計上、県でも『用地の買収交渉が成立すれば直ちに着工する』といつている。

町当局では新しい川に必要な用地の関係者に折衝、協力を願つているが、このメドがつけば、水害におびえる田町、栄町、小川町、川端町、三軒町の町民をほつとさせるほか、市街地も栄町、小川町と切断されることなく、相隣接してその形態が一変、発展することが約束される。このほか農業水利がより以上便利になるなど数えあげればきりのないほど利点がある。

第一期工事は用地買収にあまり関係のないところの夕日橋を中心にした地域の四百五十五メートルであるが、建設省や県側は、関係用地全域の買収が成立しないうちは工事にかからないというはつきりした線をだしているので、成行きを注目される。

◇花田町長の話＝七〇ミリ以上の降雨量で、氾濫するこの金木川を、水害から救うには、当初現在の川の堤防を増強するつもりでいたが、その工事にかかる経費があまりにも大きく、そのうえ曲りくねつた川のことであるから、後年のことは保障できかねる。むしろ津軽の鉄橋辺から工事略図のように一直線に新しい川をつくつた方が町発展のためにもよいのではないかと考え関係官庁にお願いしたところ、今回のような吉報をえたのである。これを一日も早く実現するためには、なんといつても関係者の理解あるご協力がなければできないのであるから、何分よろしくお願いしたい。

関係用地の面積つぎのとおり。
水田一四反八一八、畑二、一一〇、宅地六、三二一、計二三、三〇九

十二月から支払う
引揚者の貯金など

地での郵便貯金や、銀行予金、証券等の支払は、十二月一日から開始されるが、閉鎖機関係は十月十五日まで、内地の銀行関係は十一月一日三十日までに、支払請求の手続きをしないと優先支払から除かれるから、各自の上陸港の税関あてに至急請求するよう、当町係では望んでいる。

なお不明な点は役場民生係まで連絡されたい。

選挙事務
知事

来る十一月五日に知事選挙が行われることになつたが、町選挙管理委員会では『投票日になつてから名簿にないが、係の手落ちだ、といつてくる方がありますが、委員会としても、また係としても非常に困りますので、届出や、名簿の縦覧期間中の縦覧は忘れないよう注意願うとともに、清い一票を無駄にしないように』と要望している。

投票日は十一月五日
清き一票を行使しよう

二年連続者には国旗贈る
町税完納者を表彰

来る十一月三日には公会堂において、昭和二十八年度の町税完納表彰式が行われ、当日は、二年連続完納者に賞状と国旗、連続及び年度完納者に手拭その他、納期限内納入者には茶盆や茶碗などの記念品が贈られることになつている。完納者数は次の通り。

◇三年連続完納者四五四名◇二年連続完納者二〇九名◇年度内完納者二六六名◇納期限内完納者七一名

昨年度共募の感謝状授与者

◇団体協力者＝金木病院職員一同、弘前相互銀行金木支店

共募の処理計画決る
目立つ社協活動費への増額

昭和二十九年度共同募金の目標額は、いかえれば、配分目標でもあるわけであるが、年末まつさ年賀は官庁の益金は、郵政省の切実な要求によつて、その使途に特定の条件が付されることになつた。

このためこれら分を除く、一千四百十万円の処理計画は、別表の通りになつたが、前年度と異る点は、前年度の関係からか経済情勢の反映からか、施設の新設はほとんどなく、水害復旧費が多く要望され、防貧その他法外援護に積極的要望される社協活動費の増が目立つたところだろう。

処理計画

一、収入
一、募金額
四、五〇〇、〇〇〇円
二、支出
計　四、五〇〇、〇〇〇円
一、施設費への配分金
四、二〇〇、〇〇〇円
内訳
（イ）連合指導団体
一四八、五〇〇円
（ロ）共募、養護事業
六三〇、〇〇〇円
（ハ）福祉事業
一、三〇五、〇〇〇円

できるゾ！僕らの学校

年内には完成へ
時田小校舎
敷地も既に買収済み

戦後できた六・三制も地方財政の貧困から一向に整備されないが、生徒に思う存分若さを謳歌させるにはやはり完備した施設と広い校舎、大きな体操場を必要とする。中学校の屋内体操場、時田小の校舎など差し当つて新築を急がねばならないものの一つだ。

そこで町当局としてもこれが期成にここ数年全力をあげてきたが、このほど文部省の起債認可もおりたので、あとは財政裏づけを得たうえで着工すればよいばかりになつたわけである。待ちに待つた校舎が体操場があといくばくもなくわが町にその偉容を示すだろう。

危険校舎の汚名ある時田小学校がこのたび漸く新築の補助対象となつた旨県教育委員会から内報があつた。当町としては、既に新校舎の敷地として時田外崎惣次郎氏所有の山林実測面積四反歩を買収、原材料の原木払下げも大体確保するなど着々準備を進めており、本年度内には新築落成するという明るい見通しがついている。補助起債は次に掲げる算定によるものである。

①文部省の算定基礎
一、危険校舎として承認された坪数　一〇〇坪（申請の九五％）
二、坪当単価　二万六千円
三、承認された工事費　二百六十一万円
②国庫補助金　八十七万円（承認された工事費の三分の一）
③起債　百三十九万円（承認された工事費の三分の二の八割）
④二十八年度の起債　百五十万円
⑤補助、起債合計　三百七十六万円

中学校には体操場
だが問題は町の負担七百万円

町当局では、金木中学校の数年来の念願である屋内体操場を新築しようと本年度の予算に計上し、関係官庁に折衝を重ねてきたが、六・三制の整備事業として次のように認可された。しかし当初計画の二百坪の体操場建築には約七〇〇万円ばかり町費負担しなければならず、それに時田小学校新築の三七〇万円をたすと一、〇〇〇万円を超える支出になり、この面で行詰りを来している。

一、承認された坪数　一一〇坪
一、坪当り単価　二六、一〇〇円
一、承認された工事費　二、八七一、〇〇〇円
一、国庫補助金　一、四三五、五〇〇円
一、起債　一、一五六、四〇〇円

◇花田町長の話＝時田小学校の新築校舎の件は漸く決定することになつたが、実際の建坪は二、三〇〇坪なので、坪当り三万円とみて七五〇万円の工事費となる。そこで三七六万円の補助起債のみでは三七四万円が不足となり、この分だけは町費でもつて負担しなければならず、町財政運営上非常に苦しい状態にあるのでこの点町民各位に理解していただきたい。

【写真…時田小学校予定図】

会長に秋谷氏
金木地区合併推進協議会

金木、中里地区町村合併推進協力委員はつぎのように決定した。

◇会長秋谷清逸◇副会長大橋惠雄
◇委員町議会議員会員のほか津島英治、伊藤正一郎、福士勇、高橋慎一郎、泉谷藏次郎、其田市五郎、白川兵太郎◇特別委員白川直義、白川彌太郎、田中鳴吉、大橋勇五郎、吉田敏正

農村の生活改善

旨要演講生先仲康海鳴

よい孫をつくれ

今後の農村の人々が健康に過ごすには、村のすべての老若男女がみな一緒になり、同一目標をもつて生きてゆくことである。この目標というのは、つまり体の丈夫な働いても働いても、そして疲れないよく物ごとを考えて生きてゆく良識あるよい孫を作ることだ。

なぜ私たちが体の丈夫な、頭のよい孫を作つてゆくかというと、自分の老いた将来に幸か不幸かをこの孫がもたらしてくれるからである。厚生省の発表によれば生活保護を受けている世帯は全国で三十万、その原因の六八％は健康を害している者に多い。また保護を受けた者で更生できるようになつたのが三十万世帯と前とは半々という公平な数を示しているが、これは病気の回復や子供が立派に成長して一人前として一家を養えるようになつたためなのである。

よく眠れば長生き

老人とはグダメグモノナリ、念仏をとなえるものなり、よく働くものなりと定義づけることができるが、狼の森村で老人のある家は孫を丈夫に育てるには稲の場合ないが、貧乏が健康をそこなうからである。

立派な配偶者を

孫を丈夫に育てるには稲の場合

家庭はいつも円満に
「食」も「子供」も量より質

鳴海先生

る武田村は米を多く食べるので血液がすばやくなつて病気に弱くなり早死するのである。従つて私たちは老人の健康をも考え、子供もよく育て、よい孫を作らねばいけないのである。

立派な配偶者を

孫を丈夫に育てるには稲の場合

種えらびの次には苗代とくるが人間の苗代は御婦人たちである。苗代がやせていて手入れの粗末な苗代では秋の収穫が得られないように、人間の苗代も大切にしなければ

魚粉を沢山食べよ

次に肥料＝食物については、狼の森村では米を多く食べるので血液がすばやくなつて病気に弱くなり早死するのである。従つて私たちは老人の健康をも考え、子供もよく育て、よい孫を作らねばいけないのである。

（以上は遠戸保育所で行われた清明会な長鳴海康仲先生の講演の旨である）

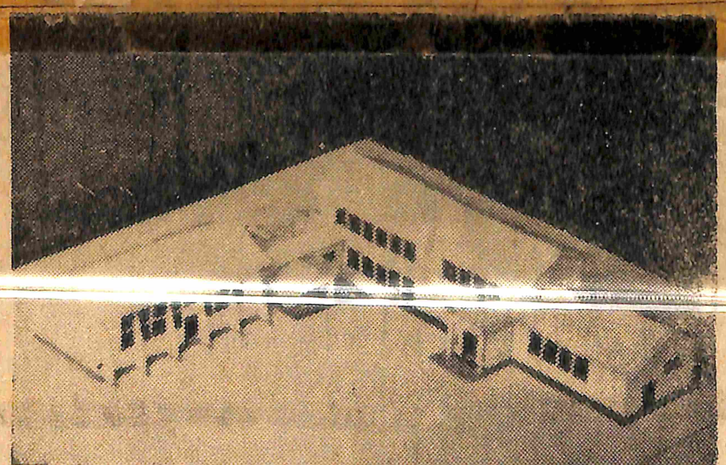
家庭は円満に
「食」も「子供」も量より質

魚粉を沢山食べよ

次に肥料＝食物については、狼の森村では米を多く食べるので血液がすばやくなつて病気に弱くなり早死するのである。従つて私たちは老人の健康をも考え、子供もよく育て、よい孫を作らねばいけないのである。

（以上は遠戸保育所で行われた清明会な長鳴海康仲先生の講演の旨である）

合併してよかつた
条件揃つた観光地



認識を愛郷心に
促進阻む認識不足

『町村合併問題、それは国や県が命ずべきものでなく、あくまで住民の意志によるものであつて、住民の盛りあがる合併意識と住民の世論というものは、ただただまつていては決して出来るものでないから、誰かが指導者となつて、その世論をつくらなければならない』ということは私から申すまでもないところです。

ご婦人には二、三年毎に生むいわゆる標準型と次々に生むテンつき型があるが、今後はこの両者とも量より質の面に向けなければいけない。そうすることによつて将来の日本人は体の丈夫な頭のよい人間になつて初めて幸福な国が作り出され、世界の総ての人がもつてくるからである。

私たちは常に自分たちの生活を反省し、生活に刷新を期さねばいけない。夢をもちつつ実際生活を解快してゆかねばいけないのである。生活改善はむずかしいことではなく、生活に楽しみをもつために改める気になることが一番大切なのである。

暮しに夢をもて

合併問題は正に既成事実のようになつている今日、本県の町村合併が、国でも一番おくれているとおりますが、これは本県の町村の人口や面積、地形の関係これに非常に根強い封建性がある原因とはなつていないで、しかし私は町村合併に対する住民の認識が薄いのが、より大きな原因になつていると思うのであります。それでは何が住民が、町村合併に対して認識が低いであるかと申しますと、やはり学歴層がほとんどなされていないというのが最大の原因であるとも過言ではないと思うのです。

促進阻む認識不足

こと町村合併のみでなく、民主政治と世論との関係についてはさらに深く考えさせられるところがあります。

それに致しても政府はすでに法制化まで考えられている折柄

年連続者に
国旗贈る

町税完納者も表彰

し月三日には公会堂に於い
和二十八年度の町税完納表
待わせが、当日は三年
完納者に賞と国旗、二年
年度完納者と表彰その他、
内納入者にはお金や実用な
念品が贈られることになつ
。完納者数は次の通り。
二年連続完納者四五四名△二
年連続完納者一〇九名△当年度内
納者二六六名△納期限内完納
一名

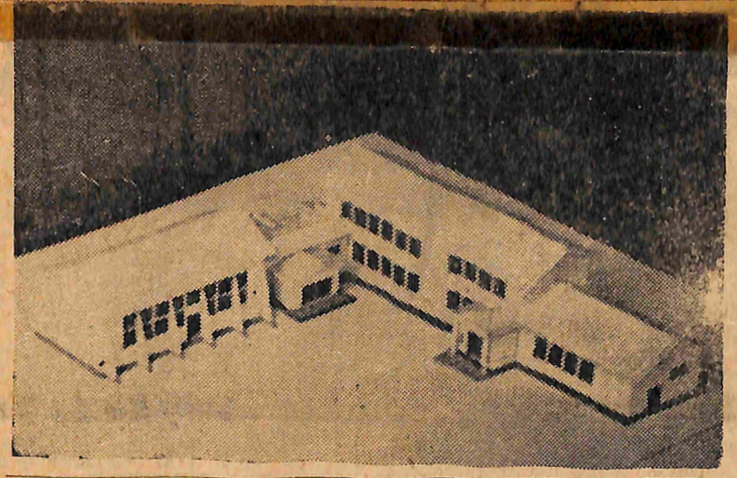
年度共募の
謝状授与者

（団体協力者＝金
職員一同、弘前相互銀行金

一月五日を行使しよう

ださいたい。

【写真：時田小学校予定図】



共募の処理計画決る

目立つ社協活動費への増額

本人団へ個人協力者＝伊藤正一郎、
長谷太郎、尾崎正二、西沢とみ
山野サキ、対馬力子、中元ミセ
佐藤ふさの、松山とし
中野ちと江、安田百合子、新岡
山田てる

み、田村ちゑ、大橋和子、鳥田
中子、加藤文則、鳥田又七、中谷
孫四郎、秋元三四郎、皇川春樹、
金木中学校、葛西雪丸、三上きせ

昭和二十九年度共同募金の目標額は、修理、増改築費が多く要望されていること、防貧その他法外援護に積極的活動を要望される社協活動費の増額が目立つたところだろう。

処理計画

一、収入

1、募金目標額　一四、五〇〇、〇〇〇円

計　一四、五〇〇、〇〇〇円

二、支出

1、施設団体への配分金　四、二〇〇、〇〇〇円

内訳

（イ）連絡指導団体　一四八、五〇〇円

（ロ）養老、養護事業　六三〇、〇〇〇円

（ハ）児童福祉事業　一、三〇五、〇〇〇円

（ニ）施設、助産　一五〇、〇〇〇円

（ホ）身障者、母子厚生　二〇〇、〇〇〇円

（ヘ）釈放者、浮浪者の保護更生　一四〇、〇〇〇円

（ト）社会事業研究養成　九〇、〇〇〇円

（チ）市町村災害見舞及び配分予備金　二〇〇、〇〇〇円

2、郷土福祉資金　六、五〇〇、〇〇〇円

内訳

（イ）郡市町村社会福祉事業資金　五、四〇〇、〇〇〇円

（ロ）募金協力費　一、一〇〇、〇〇〇円

3、募金活動費、募金会運営費　二、五〇〇、〇〇〇円

4、翌年度事業資金　八〇〇、〇〇〇円

5、負担金　三〇〇、〇〇〇円

6、予備金　一五〇、〇〇〇円

計　一四、五〇〇、〇〇〇円

（養護施設以外）

「金高生徒会の歌」できる

金木高校では、さきに生徒会歌の歌詞を県下一円から募集したが、このほど、吉屋栄一氏（青森市在住）の詞が第一位に選ばれ『津軽の旋律』で、全国的に有名な木村繁氏（弘高教授）の作曲で『生徒会歌』が作られた。

歌詞は次の三節からなつている。

一、朝日に栄え　青嶺の光湖きたつ　津軽富士
共に仰ぎて　向学の
希望におどる　眉清く
わがやゝ金木　高校に
挙るわれらの　夏気たかし

二、
水も真澄の　金木川
つねに学びて　本を鍛え
真理のとびら　ひらきつつ
愉しき金木高校に
励むわれらの名も薫る

三、
はかる津軽の　空晴れて
理想の虹を　よぶところ
自治の旗風　颯爽と
郷土を興す　団結に
伸びゆく金木高校を
歌え栄光ある生徒会

二町七カ村の組合立へ

全国に例のない金木高校

異議なく加入を認めた。

これで二町六カ村の組合立となつたわけである。嘉瀬以北の地域では脆弱村だが未加入となつているので、組合では早急に同村にも呼びかけ、二町七カ村の全国でも例のない多角経営方式の組合立高校に拡大する構想をもつており、もしこれが実現すれば組合立のモデル・ケースとして極めて注目される存在になるわけ。

れぞれ住民の意向をよく見極めた上で、専門的な立場から調査、研究したその具体的な資料を示して説明し、指導啓蒙するのでなければ、終局の目的である合併はおくれるのは当然である。

たとえば私の町の場合、嘉瀬、喜良市の三カ町村の合併、さらに武田村を加えた四カ町村の場合、なお地域をさらに拡大した場合はどうかと、地域的な関係も、あらゆる角度からみた資料をもつて、それを住民に徹底せしめたならばもつともつと理想的に、しかもスムースに運んだのではないかと考えます。

金木地区―私たちは金木、嘉瀬、喜良市の三カ町村の地区をこのように呼んでいますがこの金木地区の合併は年内に実現すべく着々準備を進めております。金木地区の考えている理想的な合併といえば、金木地区と中里地区の二町四カ村の合併であつて、県の考えている案とはおよそかけ離れた規模の大きなものであります。

もちろんそれにはいろんな理由があるのであります。将来交通網も拡張され、おのおの発展した場合は北部と西郡の一部との合併は当然考えられる問題でありますが現在の段階では先ほど申し述べました通り、金木町、中里町外四カ村は何れも津軽冢の遺産であるヒバの日本三大美林を東にひかえ、西は津軽平野に連なる十三湖と拓地区を含んだ沃田があり、そして何れも岩木川を中心にした水系をもつ密接な関係をもつております。

交通も便利になる

ただ遺憾なのは交通面で、津軽鉄道がせめて小泊まで延びていたならば、と思わぬでもありませんが、それも合併により、三十五億の事業費を要する十三湖干拓事業とともに、意外に早く実現されることは予想に難くなく、そしてこの鉄道を基幹にした交通網の大拡張、岩木川支流のダム建設による電源の開発とともに二望千里の平原地帯の開田化、大工場地帯の建設、芦野公園を中心とする喜良市中里方面と一連の大観光地の建設、さらに都北八カ町村の組合立高等学校を中心とする文教の振興など数えあげれば限りありませんが自然的、かつ社会的見地から、また財政上からみても年間二千万円もの余剰が生れるという何れも理想的な田園都市としての好条件に恵まれている地区であることは、どなたもうなづけることと思うのであります。

さらに私の脳裡にうかんできまのは、四百年位の浅い歴史でありますが、開拓された当時の木造、俵元、金木の三新田といえばあまりにも有名、その金木新田というのは今の飯詰村の岩崎から内潟までの十八カ村であり、行政区画上金木組といつてこの金木新田地区はもちろんのこと最北端の小泊の地区までの二十村が含まれていたことから考えても町村合併の叫ばれている今日何かしら感じさせられるものがあります。

話は横にそれましたが、とにかく、この好条件に恵まれた金木地区、中里地区の合併を不適当なりと断言する人は恐らくないと存じます。

これに反対される人々、それは机上の計画を樹てた人か、さもなければ誤つた愛郷心をもつた人々ではなかろうかと存じます。

だがやはり住み馴れた自分の町自分の村を愛する気持、それはよく解りますが、この際大乗的な見地からみた場合、そして百年の大計の基礎を築くという点から考えた場合、そのような誤つた愛郷心は捨てさるべきだと思うのであります。情熱の歌人石川啄木を生んだ渡民村は合併によりその名はすでにこの世にありません。

発展の基礎となれ

町村合併のたて前は住民中心主義に徹したサービス第一義の行政でなければならないことは申すまでもないことでありますが、多くの人口を包容し、包容することによつて、公共団体の財政力を確保し、財政力を確保することによつて、自治権を完全に行使して、その地域の住民の幸福の増進を図り発展の目的は将来の発展の基礎を築くことにあるのであつて、目的は合併にあるのではなく、町村合併が手段であり、且つ健全な行財政への出発でなければならないと思うのであります。

そして町村合併はただ事務的にあるいは当面の問題としておくれているからというので机上での御都合主義の合併に止まるべきでなく、時には郡の境界にもこだわることなく、はたまた合併の難易にのみとらわれることなく、真に将来の発展の基礎を築くものでなければならないと存じます。

金木春秋

『金高新聞』が東奥日報の学校新聞コンクールで一位に入賞した。とかく低調だといわれる地方文化のために気を吐いたことは大いに喜ぶべきことだし、ことに定時制でもこれだけやれるんだという自信を植えつけてくれたことは何よりの収穫だつた。

◇…学校新聞というとともすれば『ああ、赤色がかつた奴のやることさ』ぐらいにしか考えていない傾向がまだまだ強いが、学校と生徒、学校と家庭、大きな意味では学校と社会とを密接につなぐものだということを認識していないからだ。正しい世論はたとえそれが年端の行かぬ生徒の声であろうとも学校側の方針、施策に反映させねばならぬし、何よりも必要なのは生徒と先生をしつかり結ぶ心のかけ橋にならねばいけないということである。

◇…乏しい予算の中からより明るい紙面を作りあげようと苦心している部員の姿は尊いし、でき上つた新聞を一心に見つめている姿はたで見てもほほえましいものだ。八高、弘高を抑えて、県下で一番になつたという思い出は高校時代の一つの夢になるだろう。

◇…これを機会に定時制であるというヒケ目をされいにぬぐいさつてもらいたいものだ。々金木の頭脳々は決してどこにも劣つていないのだから。

（金木町長花田一・九月二十三日ラジオ青森からの放送による）

三カ町村合併は年内に

中里地区にも呼びかけ

去る九月八日には組織会を開き、十月四日には第一回の全体委員会を開いた金木地区（三カ町村）町村合併促進研究協議会では、町村部全並に事務局をも設置することに決定したが、さらに中里、内潟武田の三カ村に呼びかけ、二町四カ村の早期合併実現を促進することになり、注目をあつめている。

私達の考えている理想の二町四カ村の合併は県が第一、第二次と町村合併計画の試案を発表した今日、前途多難なものはありますが幸い金木地区の有識者が先達となり、議会その他各種団体一致協力一丸となつてこの理想郷建設の実現に邁進すべく、金木、中里地区町村合併推進協力委員会を結成しすでに活動を始めており、私たちは必らずやこの理想郷建設の実現がなるものと確信いたしているのであります。

この確、もう一言、町村合併とよく似通つたところのある、町村の農協について述べてみたいと思います。

町村の農業協同組合は、最近漸く、再建の見通しがつき、ある程度堅実な歩みを示すようになつてまいりましたが、農業協同組合法が施行された当時、一町村に二つあるいは三つの組合が設立され、その結果はいかがだつたでしょうか。それは皆様ご存じのとおりで結局は経営困難、再建不能の組合が続出し、昨年あたりから、一町村一組合の統合運動がおこり、遂には不振組合の連合体からの除名整理されるまで転落するにいたつた組合もでてきたのですが、一体これはどこに原因があり、どなたの責任だつたでしようか。

もちろんこれは組合をつくつた当事者の不見識による責任は当然でありますが、私はむしろあの当時『このままでは必然的に破滅する時期がくる』と、政府からも一般からも警告され、そしてそれを知りつつ指導に当たつた指導的地位にあつた人々の責任が最も大きかつたのではないかと考えます。

識ある愛郷心に指てよ

條件揃った観光、田園都市

……合併してよりよい郷土を……

【町村合併の問題、それは国やなつている今日、本県の町村合併が、全国でも一番おくれていると住民の意志によるものであつて、住民の盛りあがる合併意識と住民の世論にまつほかないが、その世論というものは、ただたまつていては決して出来るものでないから、誰かが指導者となつて、その世論をつくらなければならない」ということは私から申すまでもないところです。

促進阻む認識不足

こと町村合併のみでなく、民主政治と世論との関係についてはさらに深く考えさせられるところがあります。

そこに致しましても政府はすでに法が制まで考えられている折柄合併問題は正に既成事実のようにあり、本県の町村合併は、全国でも一番おくれているといわれておりますが、これは本県の各町村の人口や面積、地形の関係、それに非常に根強い封建性等が大きな原因とはなつているでしょう。しかし私は町村合併に対する一般住民の認識が薄いのが、何よりも大きな原因になつていると思うのであります。それでは何故住民が、町村合併に対して認識が低調であるかと申しますと、やはり指導啓蒙がほとんどなされていないというのが最大の原因だと申しても過言ではないと思うのです。

県では四月に第一次の町村合併計画試案を発表しておりますが、あれは本県が非常に町村合併がおくれているので一応アウト・ラインを示して県民の合併意識を促進させようとしたものと思つています。

それによつて合併意識の昂揚という点では確かに効果があつたし各町村でも次第に関心を持つようになりますものの、本当のアウト・ラインだけでありましたので、合併の必要性を形だけ説いただけで、むしろ上から押しつけられたという感じより受けてないと思うのであります。末端の町村は町村なりにそれぞれプライドもあり、考えている向きもないではないのであります。

当金木地区では先般来、県係官の来町を願つて合併事務の指導をお願いいたしましたが、私は新しい町村の第一次の合併計画試案を発表する前に、どうしてくれなかつたかと、結果論になりますが、今になつて残念でたまらないのです。

利点あげて啓蒙を

住民に町村合併の意味と必要性をもつと広く深く浸透させ、さらに合併によつて、こんな利点があるのだという具体的な事例、たとえば経済的な問題、あるいは道路農業水利の面、教育、衛生、金融の問題とあらゆる面について、そ

合併の基礎資料とその効果資料をこのたび作製し、年内には三カ町村の合併を実現すべく、近く専門部会並に事務局をも設置すること